

I 概要

青森県基本計画「青森新時代」への架け橋では、農林水産業に関する施策や取組が、政策テーマ「しごと」を中心に、多岐に渡っています。

基本計画の政策テーマ「しごと」では、2040年に目指す姿として「農林水産業が持続的に発展する社会」を掲げています。

このため、農林水産業が持続的に発展する社会の実現に向けた取組を①販売力強化、②生産性向上、③人財育成、④農山漁村振興の4つの柱に整理し、政策パッケージとして策定します。

青森県基本計画「青森新時代」への架け橋の概要

青森県 基本計画	基本理念	AX (Aomori Transformation) ▶ AXの基盤 「挑戦」「対話」「DX」					
	めざす姿	若者が、未来を自由に描き、実現できる社会					
	政策テーマ	しごと	健康	こども	環境	交流	地域社会

青森新時代「農林水産力」強化パッケージの概要

めざす姿

農林水産業が持続的に発展する社会

特徴1

品目・分野に着目した施策体系

販売力強化

所得向上につながる販売戦略の展開

商品開発、販路拡大
情報発信、地産地消

生産性向上

利益の最大化を目指す生産性向上

水田農業、野菜・花き
果樹、畜産 など

人財育成

次代を担う人財の確保・育成

農業 林業 漁業
人財 人財 人財

農山漁村振興

元気で豊かな農山漁村づくり

地域活性化、地域資源
多様な人財活躍

特徴2

プロジェクトごとに数値目標を設定

継続的取組

地道な取組

プロジェクト

関係者が連携した
重点的な取組

所得向上プログラム

生産者が実践

特徴3

対話を重視した
施策形成

進行管理・施策形成

青森県「農林水産力」
強化本部
(本部長：知事)

情報共有

8つの部会
(部会長：課長)

対話

生産者
関係団体
市町村

II 主な特徴

特徴1 品目・分野に着目した施策体系

生産者や関係団体が理解しやすいように、品目・分野に着目して施策を分類した上で、このうち、特に重点的に取り組むものをプロジェクトとして整理し、施策を展開します。

特徴2 プロジェクトごとに数値目標を設定

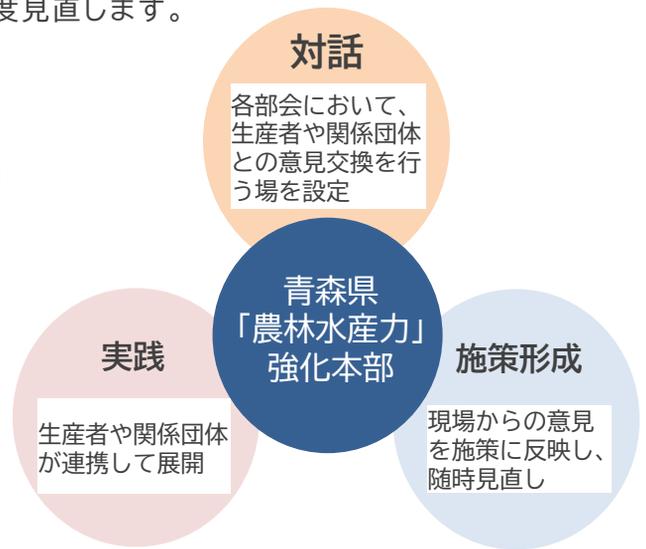
プロジェクトごとに目標や挑戦する内容を設定し、実効性を高めるため、関係者がどのように連携していくのかを明確にするとともに、進捗状況を確認しながら、同じ目標に向かって取組を進めます。

プロジェクトは、関係事業の改廃に合わせて毎年度見直します。

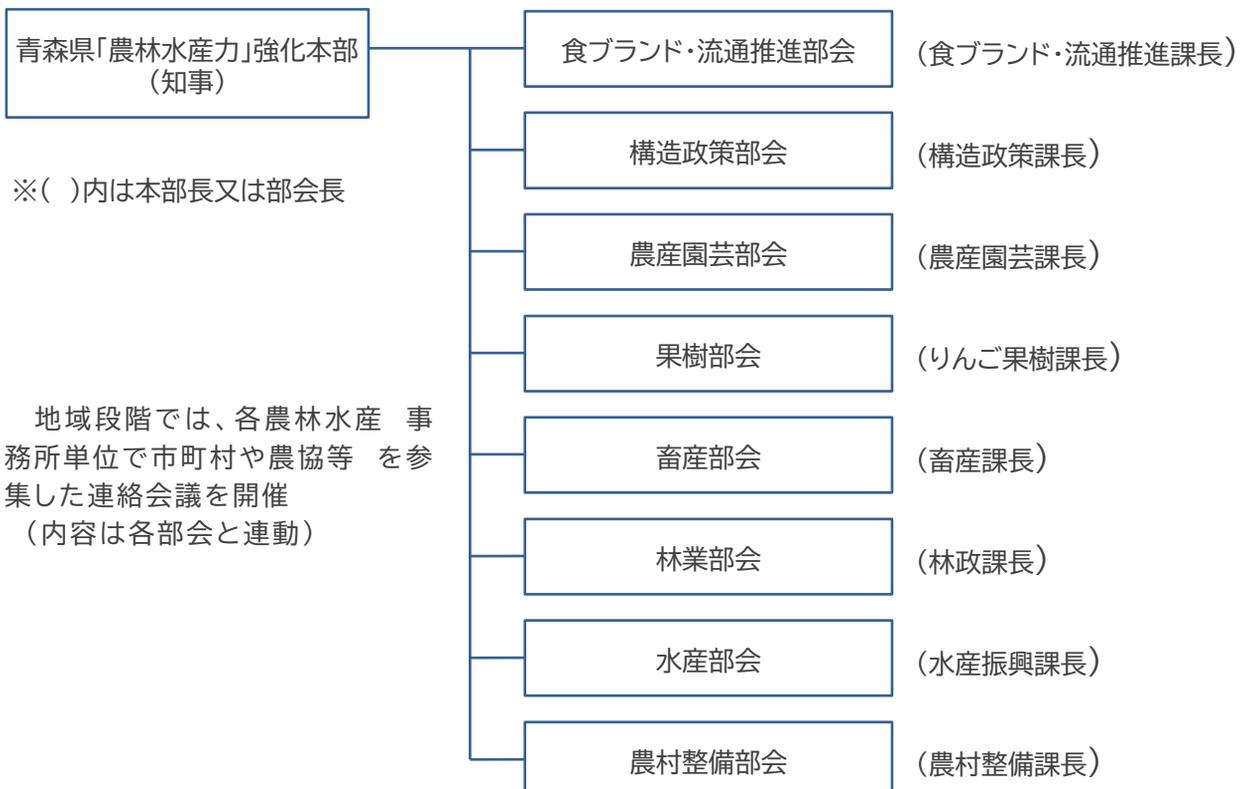
特徴3 対話を重視した施策形成

知事を本部長とする本部の下、分野ごとに部会を設置し、生産者や関係団体と連携して施策を展開します。

また、現場からの意見を施策に反映させるため、各部会の企画により、生産者や関係団体のキーパーソンとの意見交換を随時行います。



【青森県「農林水産力」強化本部組織図】



Ⅲ 令和6年度に実施した対話の概要

1 関係者との対話の状況

青森新時代「農林水産力」強化パッケージの推進に向けてスタートダッシュを図るため、令和6年度は5月から6月を「対話強化月間」に設定するなど、積極的に生産者等との対話の機会を設けて、その結果を参考にプロジェクトの見直しや事業構築を検討しました。

項目	令和6年 4～6月	7～9月	10～12月	令和7年 1～3月
対話	日頃の普及活動や「#あおばな」等の対話により1,630件※の意見を集約 ※R7.2月現在			
	対話強化月間 (5～6月)	各部会(第1回) (7月) 農政審議会(7月) 水産振興審議会(7月)	森林審議会(12月)	各部会(第2回) (1月) 「農林水産力」 強化本部(2月)
	「#あおばな」(農林水産関係12回)			
施策形成		方向性の検討 知事・副知事と部局長 の意見交換(9月)	R7予算の検討	2月議会

2 対話で出された主な意見

■ 農業

- ・所得向上プログラムの実現に向け、提案型の補助事業を創設してほしい(農業経営士)
- ・ゲノム解析技術を活用した和牛改良の推進と優良雌牛の導入奨励金を創出してほしい(和牛改良組合)
- ・企業による労働者派遣や連携、農業参入など、企業の力で本県農業・農村を支援する取組が必要
(「地域計画」座談会)
- ・スマート農業を導入するための通信環境の整備が一番大事(農政審議会)

■ 林業

- ・県産材の需要拡大に向けて、住宅への支援やモデルとなるような公共施設での利用を進めてほしい(#あおばな)
- ・林業アカデミーの機能を強化してほしい(林業部会)
- ・県産材利用のインセンティブとなり得る補助制度を作してほしい(工務店)



若手林業従事者との#あおばな

■ 漁業

- ・温暖化に対応した技術開発を進めてほしい(#あおばな)
- ・ホタテの親貝がいなければ産卵しないので、親貝確保が第一の問題だ
(むつ湾漁業振興会)
- ・いきなり協業化は難しいが、共通する作業を一緒にやるところから始めていければいい(陸奥湾ホタテガイ総合戦略チーム)



ホタテガイ生産者との#あおばな

IV 令和7年度農林水産政策の重点項目

青森新時代「農林水産力」強化パッケージを着実に推進するとともに、生産者等との対話や各部会での検討結果などを踏まえ、気候変動や物価高騰、スマート技術の進化など、農林水産業を取り巻く環境の変化にしっかりと対応しながら、以下の項目について重点的に取り組みます。

1 所得を上げる ための「生産者」の経営改善支援

(主な取組内容)

- ・経営指導を受けた農業者自らが計画・提案する公募・成果連動型支援事業の創設
- ・ゲノミック評価による優秀な雌子牛の選定と子牛市場の新たな取引システムの導入
- ・県産米の輸出拡大とながいもの品質を維持する優良種苗増殖体系等の実践

2 産業を守る ための「企業」等との連携

(主な取組内容)

- ・りんご産地等の課題解決に向けた企業の農業参入支援と受入態勢づくり
- ・県内建築物で使う木材を県産材に転換するための仕組みづくり
- ・ホタテガイの効率的な採苗や高水温に対応した養殖技術の開発

3 次代を支える ための「人財」の確保・育成

(主な取組内容)

- ・「あおり農業経営塾」と提案型海外研修の継続実施
- ・青い森林業アカデミーNextVision(仮称)の作成と指導体制の整備
- ・ホタテガイ養殖業などの承継円滑化等に向けた定着支援プログラムの策定

1 所得を上げるための「生産者」の経営改善支援

所得向上プログラムの実践支援

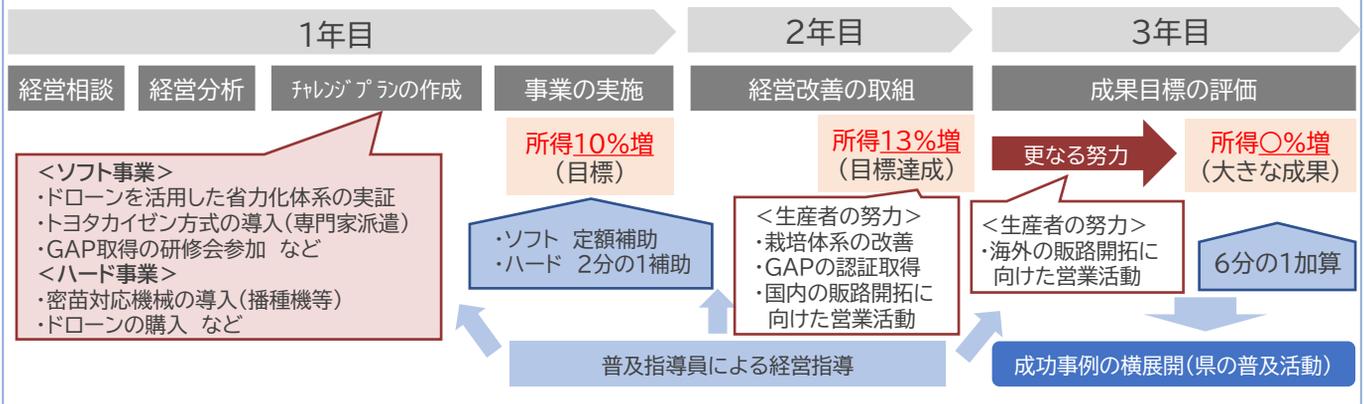
① 農業者の経営分析・経営改善等の指導體制の強化

- ・ICTを活用した効率的な指導體制の構築
- ・経営指導力の高い普及指導員の早期育成 など

② 経営指導を受けた農業者自らが計画・提案する公募・成果連動型支援事業の創設

- ・ソフト支援(必須): 定額
- ・ハード支援: 2分の1補助
: 成果が大きい場合6分の1加算(後年度) } 総補助率は最大3分の2

<取組イメージ>



青森「米づくり新時代」の推進

① 超・プレミアム米の実証

- ・栽培実証とSNS等による超・プレミアム米のPR

② 超・低コスト米生産技術の確立

- ・栽培実証とSNS等による超・低コスト米栽培技術のPR

③ 県産米の輸出拡大

- ・輸出を見据えた多収品種の開発と実証

<取組イメージ>

超・プレミアム米



良食味米



環境に配慮しながら
食味と品質を追求

各種認証制度



認証制度の活用による
差別化

超・低コスト米



多収品種



「まっしぐら」より
収量が1割多い有望系統

省力・低コスト技術



省力・低コスト効果の高い
「水稻V溝乾田直播栽培」

ながいも出荷量日本一に向けた取組

①品質を維持する優良種苗増殖体制の構築

- ・催芽切いものほか、成いもの小切片を利用した種苗増殖方法改善の実証
- ・野菜研究所からの原原種成いも供給体制の実証

②新品種「夢雪」の高品質多収栽培技術の確立

- ・「夢雪」の特性に合わせた高品質多収栽培技術の確立

<ながいもの種苗供給体制イメージ>



肉用牛の生産構造のダイナミックな変換

①ゲノミック評価による優秀な雌子牛の選定

- ・子牛の能力を推定するため、生産者のゲノミック解析に係る費用を県が全額負担

②高評価雌子牛の市場取引の定着、保留の推進

- ・ゲノミック評価結果のセリ名簿への掲載
- ・高評価雌子牛を購入し、繁殖雌子牛として供用する場合に奨励金を交付

<取組イメージ>



○本取組を2年間継続することで、子牛の販売価格が上昇し、農家所得が向上。個々の経営体が、継続的にゲノミック解析の実施や高評価雌子牛を購入できる基盤が構築される。

2 産業を守る ための「企業」等との連携

企業の農業参入推進

①農業参入に向けた企業へのアプローチ

- ・参入意向の調査(1,500社程度)
- ・参入ニーズに応じたオーダーメイド型支援策(R8以降)の検討



大規模高密植栽培企業の参入

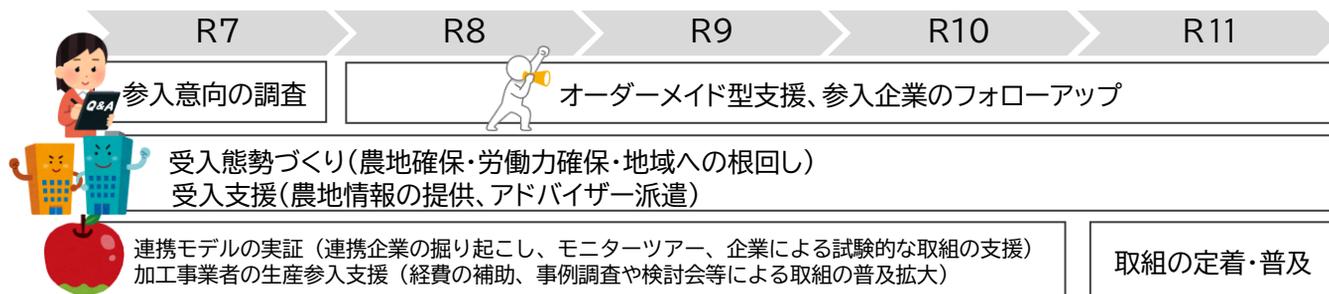
②企業の農業参入受入態勢づくり

- ・参入ニーズを受入希望市町村と共有し、県と市町村が連携して対応する態勢を整備
- ・農地情報サイト活用による情報提供や、技術アドバイザー派遣による営農面等でのフォローアップ

③りんご産業への参入支援

- ・連携モデルの実証
- ・加工事業者が新たにりんごの自社生産等にチャレンジする際の経費の補助

<取組ロードマップ>



県産材の需要拡大

①地域製材ネットワークの構築

- ・「A-wood※」ユーザーのニーズにワンストップで対応できる県産材供給体制の構築

②「A-wood」ユーザーの育成

- ・県産材利用に取り組む建築事業者への支援
- 〔補助金額:定額(上限50万円/棟)
補助要件:青森県「A-wood使います宣言」事業者への登録〕

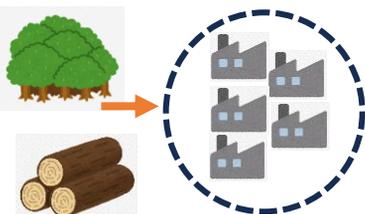
③公共建築物における利用促進対策

- ・県産材の調達、設計・施工に対するサポート体制の整備
- ・庁内に県産材利用推進会議を設置し「県有施設木づかい宣言」を実施

※「A-wood」とは、青森県の森林で生産され、青森県で製材し、青森県で利用される木材のこと。

<取組イメージ>

地域製材ネットワークの構築



中小製材工場

「A-wood」ユーザーの育成



県産材利用に取り組む建築事業者

公共建築物における利用促進対策



公共建築物

陸奥湾ホタテガイ総合戦略の推進

①生産高度化

- ・効率的な採苗に向けた技術開発
- ・高水温に対応した養殖技術の開発

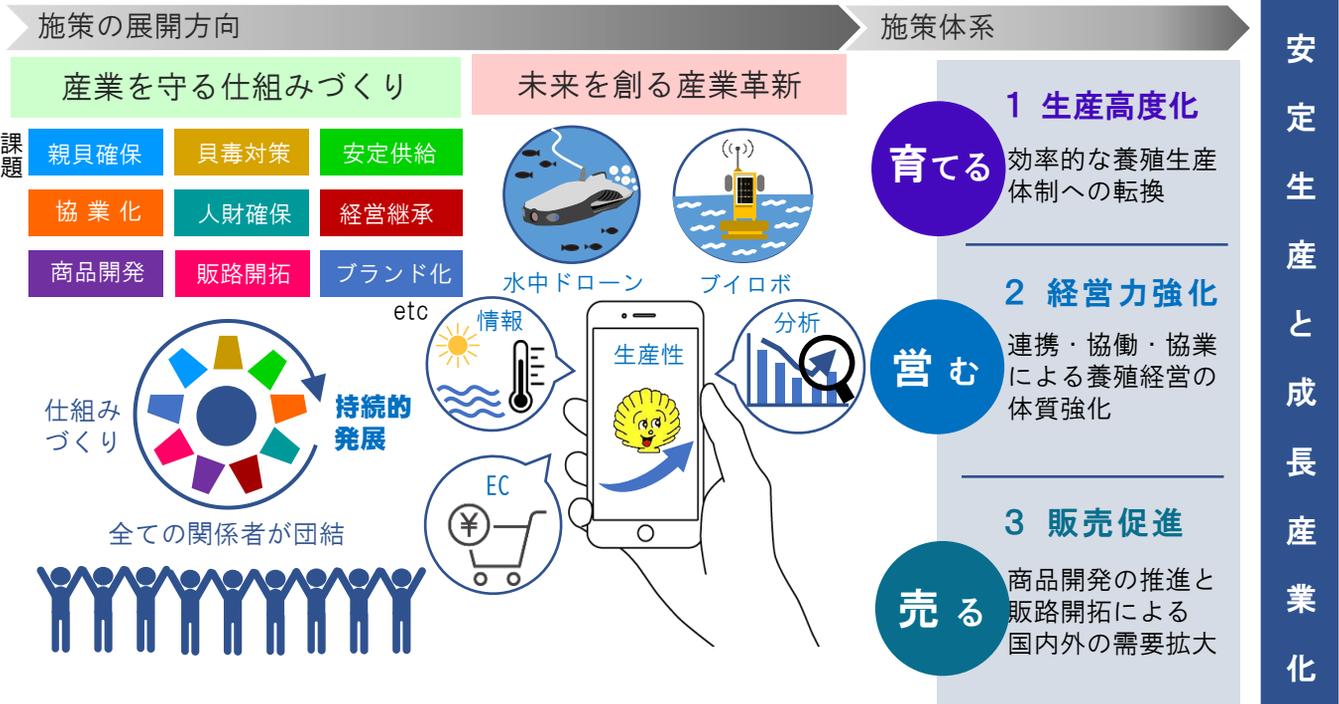
②経営力強化

- ・経営安定に向けた生産体制の見直し
- ・養殖作業の効率化に向けた協業の推進
- ・養殖経営体の承継円滑化

③販売促進

- ・既存の販路における需要拡大(米国、東南アジア等)
- ・新たな輸出先の開拓(EUへのベビーボイルホタテ輸出)

<陸奥湾ホタテガイ総合戦略の展開方向>



3 次代を支えるための「人財」の確保・育成

「あおもり農業経営塾」と提案型海外研修の実施

- ・ 一流講師陣による農業経営のプロになるための実践的な経営力向上研修
- ・ チームによる提案型海外研修の支援



海外研修企画提案書の発表

青い森林業アカデミーの機能強化

- ・ 青い森林業アカデミー将来構想の作成
- ・ 関係団体を委員とした林業労働力確保対策協議会(仮称)を設立し、意見聴取
- ・ 現場技術指導体制の整備



間伐作業の現場指導

養殖経営体の承継円滑化

- ・ 就業・定着支援プログラムの策定
- ・ ホタテガイ養殖業の魅力発信
- ・ 漁業体験等のインターンシップ



ホタテガイ養殖業体験

■その他(令和6年度2月補正予算での物価高騰対策)

配合飼料等価格高騰の影響緩和への支援

- ・配合飼料価格上昇分の一部を支援
- ・自給飼料を給与している場合は、配合飼料のみの場合と比較して、栽培経費が発生するため、補助単価を高く設定

補助単価	
配合飼料を給与	1,800円/トン
配合+自給飼料を給与	3,700円/トン



肉用牛繁殖経営安定化への支援

- ・黒毛和種子牛の市場への出荷頭数及び自家保留頭数に応じて、生産費と販売価格等の差額の一部を助成

補助単価	
子牛1頭当たり	6万円



漁業経営への支援

- ①漁業用燃油・養殖業用飼料価格高騰への支援
- ・「漁業経営セーフティネット構築事業(国庫)」の漁業者・養殖業者負担分の一部を支援

- ②持続可能なつくり育てる漁業へ向けた支援
- ・ナマコ種苗生産やサケふ化場の運営に係る経費の一部を支援

補助率	
ナマコ	定額
サケふ化場	定額



農業水利施設の電力価格高騰への支援

- ・土地改良区等の安定的な運営を図るため、電力価格上昇分の一部を支援

補助率	
電力価格上昇分の3分の1以内	



V プロジェクトの見直し内容

「農林水産力」の強化に向けた4つの柱と44のプロジェクト

販売力強化

商品開発	①消費者ニーズに寄り添った新商品開発
販路拡大	②物流革新と販路開拓・拡大
情報発信	③あおりブランドの確立に向けた情報発信の強化
地産地消	④地域経済の活性化に向けた地産地消の推進

(統合)

生産性向上

【農業】

水田農業	⑤世界に羽ばたく持続可能な米づくり ⑥水田フル活用による収益力強化
野菜・花き	⑥「ながいも」で儲かる産地づくり ⑦「にんにく」で儲かる産地づくり ⑧施設園芸で儲かる産地づくり
果樹	⑨世界に誇る「青森りんご」の次世代への継承 ⑩安全・安心の「青森りんご」輸出基盤の強化 ⑪おとう「ジュノハート」による産地力向上
畜産	⑫多様なニーズに対応した牛肉生産 ⑬次世代につなぐ酪農産地づくり ⑭持続可能な畜産を支える草づくり ⑮畜産を守る家畜衛生対策の推進
生産基盤	⑯スマート農業にも対応した基盤整備の推進 ⑰農業・農村の防災・減災、強靱化 ⑱経営の効率化に向けた農地集積・集約化等
先端技術	⑲あおり「農業DX」の実現
持続可能な農業	⑳環境負荷低減による持続可能な農業の実践拡大

【林業】

森林整備	㉑緑豊かな森林づくりによるCO ₂ 吸収力の強化
生産基盤	㉒県土を守る森林環境の保全 ㉓スマート林業技術等を活用した林業のデジタルシフト
木材利用	㉔県産材の安定供給と利用の確保

【漁業】

増養殖	㉕ホタテガイ100億円産業の恒久化→ホタテガイ300億円産業の恒久化(名称変更) ㉖サーモンの一大産地化 ㉗ナマコ資源増大チャレンジ ㉘つくり育てる漁業の推進
漁船漁業	㉙持続可能な漁業に向けた新たな資源管理の推進 ㉚いか釣り漁業の経営安定 (新規)
水産基盤	㉛水産業の成長産業化に向けた拠点整備 ㉜環境変化に適応した漁場生産力の強化

人財育成

農業人財	㉝未来を担う人財育成 ㉞所得向上プログラムの実践 (新規) ㉟企業の農業参入の推進 (新規)
林業人財	㊱林業の新たな担い手確保・育成
漁業人財	㊲漁業者の確保・育成

農山漁村振興

地域活性化	㊳あおり型農村RMOの実現 ㊴「海業」の推進による漁村の活性化
多様な人財活躍	㊵多様な農業人財の活躍促進 ㊶ユニバーサル農業の推進
地域資源	㊷食の力を生かした健康的な暮らしの実現 ㊸農業・農村インフラの機能の確保 ㊹森林資源等を生かした山村の振興

【概要】

生産者等との対話や各部会での検討結果などに基づき、新たに3プロジェクトを追加したほか、内容の一部見直しに伴い、1プロジェクトの名称を変更しました。

また、効果的に取組拡大を行うため、1プロジェクトを統合しました。

年度	販売力強化	生産性向上	人財育成	農山漁村振興	計
2024	4	28	3	7	42
2025	4	28	5	7	44

【新規プロジェクト】

いか釣り漁業の経営安定プロジェクト

目 標

ICTスルメイカ漁獲情報
管理システムの登録者

令和6年
56人

↑

令和10年
68人

挑戦する内容

- ・県内外のスルメイカ漁獲情報等のICT化等による収益力確保支援
- ・ケンサキイカ（南方系イカ）等の漁獲状況の調査・解析
- ・漁法の複合化に向けた所得向上プログラムの策定・普及



スルメイカ漁獲情報管理システム

所得向上プログラムの実践プロジェクト

目 標

1経営体当たりの
生産農業所得

令和5年
488万円

↑

令和10年
625万円

挑戦する内容

- ・農業者の経営分析・経営改善指導等の指導體制の強化
- ・所得向上プログラムの取組支援



水稲の可変施肥田植

企業の農業参入の推進プロジェクト

目 標

農業生産参入法人数

令和4年
77社

↑

令和10年
110社

挑戦する内容

- ・企業の本県への農業参入に向けたオーダーメイド型の支援
- ・企業の農業参入に対応する受入態勢づくり
- ・企業とりんご生産者等との連携、加工事業者のりんご生産の参入支援



オランダ式栽培技術の導入